

事 業 報 告 書

令和6年度

【令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日まで】

学校法人 常磐会学園
幼保連携型認定こども園
常磐会短期大学付属いづみがおか幼稚園

1. 法人の概要

① 名称 : 学校法人常磐会学園
② 住所等 : 大阪府大阪市平野区平野南 4-6-7
電話番号 : 06-6709-3170
ファックス : 06-6709-2201
ホームページ : <http://www.tokiwakai.ac.jp/intro/group.html>

③ 設置する幼稚園名

幼稚園の名称 : 認定こども園 常磐会短期大学付属常磐会幼稚園
: 幼保連携型認定こども園 常磐会短期大学付属いずみがおか幼稚園
: 認定こども園 常磐会短期大学付属茨木高美幼稚園

認定こども園を構成する施設	名 称	認定こども園 常磐会短期大学付属 いずみがおか幼稚園	種別等	種別 学校法人 幼保連携型認定こども園
				認可等年月日 昭和 47 年 4 月 1 日
	所在地	堺市南区三原台 3 丁 3 番 1 号		認可等定員 215 名 1 号認定子ども 55 名 2 号認定子ども 100 名 3 号認定子ども 60 名
				園長名 (就任年月日) 高田 昌代 (2019 年 4 月 1 日)

電話番号 : 072-291-0393
ファックス : 072-291-4093
ホームページ : <http://www.tokiwakai.ac.jp/izumigaoka/>
メールアドレス : izumigaoka-youchien@siren.ocn.ne.jp

④ 理事長氏名 : おかもと 岡本 和恵

※理事 10 人、監事 2 人、評議員 23 人

- ・定例理事会 年 11 回開催 (毎月開催、但し 8 月を除く)
- ・定例評議員会 年 5 回開催 (4 月・5 月・10 月・1 月・3 月)

令和6年度 事業の実績

1. 園児の確保

(1) 園児数（令和7年3月1日現在）

歳児	認可定員	認可定員内訳	1号認定	2号認定	3号認定	実員内訳	組数
0歳児	60	11			71	11	1
1歳児		19				29	1・2歳児混合
2歳児		30				31	
満3歳児	155	1号定員	6			6	1
3歳児		2号定員		14	26	39	2
4歳児		55	5	26		31	2
5歳児		100	12	36		47	2
合計	215	215	37	88	71	196	11

(2) P R の方法

- ① 堺市の認定こども園のページから本園にリンクするようにし、情報公開を行った。
- ② ホームページの写真入れ替え、内容の見直しを行い本園の特長がより伝わるよう厳選し掲載した。
- ③ 子どもの生活や遊びをポートフォリオにしてホームページで紹介し、園としての子どもの見取り方や教育・保育をする中で大切にしている子どもの姿とその受け止めを知らせた。
- ④ 0歳児からの未就園児を対象に子育て支援クラス（いちご組）を開始。また、遠方の方への駐車場開放の事前予約を行ったことで沢山の方が園に来て過ごすことが増えた。
- ⑤ 地域秋祭り（みはらまつり）で年長児が和太鼓を演奏したり、三原台中学校区健全育成委員会の子育てフォーラムで、本園の夏まつりに地域未就園児を招待したりするなどしたことは園の取り組みを知つてもらう良い機会となった。
- ⑥ 入園説明会は、希望者のニーズに合わせて個別対応することで園の保育内容への理解につながった。
- ⑦ 様々な子育て支援を行う中で、本園への興味・関心につながり安心感・信頼を高めることができた。

[一時預かり事業（一般型と幼稚園型）、子育て相談（キンダーカウンセラー事業）、乳児家庭全戸訪問事業（電話での聞き取り・訪問）、満3歳児入園、未就園児いちご組・めばえルーム等
土曜日地域園庭開放]

(3) 入園の方法

- ・ 1号認定：コンセプトブックや入園説明会を通し、園の教育方針や理念を理解したうえで願書を提出、その後幼児観察と親子面接を実施する。
- ・ 2・3号認定：区役所による利用調整後、幼児観察と親子面接を実施した。

2. 教育・研究の推進

【教育目標】

「温かく安らぐ生活の中で、豊かな感性、好奇心、思考力の基礎を培う」

- ・ 健康な生活の仕方を身につけ、自分のことを自分でしようとする子ども
- ・ 自分を大切に、友達も大切にする子ども
- ・ ちがいを受け入れ共に育ちあう子ども
- ・ よく見、よく聞き、よく考える子ども

- ・心をうごかし、やってみようとする子ども
- ・感じたことを豊かに表現し、自分らしくのびのび生活する子ども

【重点課題】

- ① 今年度も保育現場をビデオ撮影し、みんなで同じ場面を見て振り返る園内研究保育とした。担当の保育教諭がもつ課題について話を聞いた後に映像を見ること、担当者の立場に立ち考え方を大切にしてきたことから、それぞれの保育教諭が出す意見に対し共感したり、自分と違う視点で子どもも理解について話を聞けたりしたことは学びを深め、保育の幅を広げることとなった。
- ② 短時間ではあるが日々終礼を行う中で、子どもの姿の受け止めや保護者対応など必要に応じ皆で考えたことは園の理念や方針を再確認できる機会となった。
- ③ 未就園児クラス（いちご組、めばえルーム）や地域未就園児を園行事に招待した。また、園児や教職員が地域行事に参加したこと、子どもの育ちや、子どもと保育教諭のかかわる姿から園の雰囲気を感じてもらえ、園に興味をもった方の問い合わせや未就園児クラス登録につながった。

【研究テーマ】

『子ども・子どもにかかわる大人のウェルビーイング 成長の支援を考える』

(1) 幼保連携型認定こども園としての教育・保育の創造

- ① 切れ目のない子育て支援を行う。
 - ・特に在宅で過ごす子どもと保護者に対して、いろいろな人や環境にかかわって過ごせる機会の提供（未就園児クラス、園行事への招待、園庭開放等）安心できる、ホッとできる場所を提供した。
 - ・保護者が専門家に相談できる場を提供するとともに、保護者の要望に応じ専門機関とつなぎ連携をとりチームで保護者対応をしたことで保護者の不安を和らげた。

- ② 小中学校、関連機関と連携し情報を共有し、子どもの安全を確保するとともに家族支援を行った。

また、地域青年育成委員等で子育てイベントを企画、連絡会に参加する等地域で多様な子どもの状況と一緒に見守った。

- ③ 地域小学校との交流会で、年長児が進学する小学校教諭とカンファレンスし情報共有したり、小学校の生活、幼稚園の生活を互いに知ったりすることで小学校への接続が滑らかなものとなるように努めた。

(2) 園児の生活の充実と安全確保

- ① 子どもの話に耳を傾け、言葉にならない思いに対しても「何を伝えようとしているのか」表情やしぐさから汲み取りかかわることで子どもが安心し意欲的に生活する姿になっていった。このような保育教諭の姿勢は保護者の安心につながっていると保護者アンケートで評価いただいた。

- ② 園内研究保育をする中では、保育計画案や保育実践での学びが多くあり、子どもの興味や関心を理解する力にもつながり専門性を高めることとなった。子どもの姿から考える保育、環境構成の大切さを再確認できた。

- ③ 互いに語り合い学び合う同僚性の高まりから子どもを多面的に見ることで子どもの自己肯定感や自信の高まりにつながった。

- ④ 保護者アンケート結果を保護者に公表することで、多様な保護者の思いを知ってもらえる良い機会となり、園理解にもつながった。また、保護者の貴重な意見を真摯に受け止め、改善が必要であると思われる項目に対しては話し合いを行い対応することとした。

- ⑤ 園舎建物診断、建物漏水調査、遊具安全点検士による園庭遊具の安全点検、専門業者による遊具や施設のメンテナンスを行い事故の予防に努めた。

- ⑥ 2号認定こどもの増加とともに、夕食対応児も増えてきつつあった。給食、預かり保育担当者との連携を強化するとともに、職員配置やシフトの見直しが必要となった。今年度はぴっころ会議が定期的に行えなかった時期もあったので、時間と職員配置の調節を行い子どもの気持ちに寄り添う保育がより充実するようにしたい。

⑦ 仕事の効率化として計画的に仕事を進めようとしたが、預かり保育中の子どもも対応や、緊急の保護者対応で予定通りに仕事が進まないことも多くあった。どの教職員であっても子どもや保護者にとって安心できる人になれるよう、日々のかかわりの中で信頼関係を築いていけるよう意識していくとともに教職員間での連携を密にする改善点が見えた。

(3) 特別活動

- ① 園内教育・保育研究の記録をまとめ研究誌「あしあと XXVIII」を刊行。
- ② 2024 年度 ソニー幼児教育プログラム（科学する心を育む）に 5 歳児の保育実践論文『夏野菜と共に育つ科学する心の“め”～「発見から学ぶ」体験を通した学びを～』に応募し、「奨励園」を受賞した。
- ③ 地域との連携、つながりが活発に行えた。（三原台小学校 1 年生・5 年生交流会、みはらまつり、みはら文化祭り、子育てフォーラム、地域ゴミ清掃参加）
- ④ 年長児と保護者対象に「小学校出前授業」を行う。堺市立三宝小学校校長 安原 巧氏を迎える子どもには模擬授業、保護者には小学校進学に向けて講演していただき、小学校進学への期待を膨らませた。

3. 人事・組織

	令和 6 年度 (5 月 1 日現在)	備 考
園 長	1	
教 頭	1	
主 幹 教 諭	2	
指導保育教諭	1	
保 育 教 諭	9	
兼任保育教諭	26	
職 員	3	看護師・管理栄養士・事務員
兼 任 職 員	17	栄養士 2 名、調理師 1 名、調理員 4 名、産業医 1 名含む
合 計	60 名	

4. 施設設備の整備

(1) 教育機器備品

遮熱テント 1 台、アール型幼児椅子満 3 歳児用 3 台、木製ボールプール一式(乳児用)、タブレット Surface Go4 パソコン 4 台、動画編集用ノート PC 2 台

(2) 管理機器備品

きほん開戸収納棚 2 台

5. 収支実績

(単位：円)

年 度	事業活動収入	事業活動支出	基本金組入前 当年度収支差額
令和 4 年度	246,142,945	265,312,108	△19,169,163
令和 5 年度	257,459,259	271,155,480	△13,696,221
令和 6 年度	282,240,516	276,280,708	5,959,808

